

令和 7 年度 WG活動計画書

WG名称	地理情報活用ワーキング	
主査	埼玉大学 准教授 堤田 成政	
基本情報		
・地理情報の防災・減災への活用をテーマとし、関係する民間企業と地方自治体の参加を想定		
目標・活動目的		
・災害に強いレジリエントな社会を構築するためには、発災後の災害状況を早期かつ正確に把握することが求められている。現在、地理情報システムや衛星画像解析など様々な先端技術が開発され、それらの実装化に向けた検討が進んでいる。そのため、自治体の防災担当者をはじめ、地域防災のステークホルダーが地理情報の基礎知識を習得することや、応用技術の本質を理解することが、効果的に地域防災を推進する要となる。本WGは、コンソーシアム会員と共に課題を整理するとともに、大学や企業が持つ技術情報を共有し、解決方法をWG参加会員とともに探ることを目的とする。 ・本ワーキング活動が、地域防災のステークホルターにとって、継続的に先端技術を学び活用するためのプラットフォーム形成に繋げて行くことを目標とする。		
年間活動内容		
・課題の共有のためのニーズ・技術情報収集 ・基礎知識習得のための講義開催 ・技術シーズ深化のための研究会の開催 ・情報公開と啓蒙のための公開セミナーの開催 ・事業への落とし込みの検討		
年間スケジュール		
・年間活動計画を踏まえ、以下のスケジュールを予定する。		
四 半 期 計 画	1Q	・WG立ち上げ準備
	2Q	・第1回WG開催（地方自治体防災担当者から、地理情報の活用に関する地域防災計画等の遂行に関わる課題の意見交換）
	3Q	・第2回WG開催（第1回の課題整理と課題解決に向けたアイデア意見交換）
	4Q	・第3回WG開催（公開セミナー：整理された課題の公開と課題解決の事例紹介（大学、企業）、次年度計画検討）